

令和5年度 大阪府立光陽支援学校 第3回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	天野 ちさと

開催日時	令和6年2月15日(木)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	鎌倉 義雄(委員) 藤川 実世(委員) リモート参加: 小田 浩伸(会長)
出席者(学校)	天野 ちさと(校長) 道前 光司(事務長) 大石 恵理(教頭) 中村 素子(教頭) 竹内 成江(首席) 藤原 克行(首席) 赤星 哲也(首席) 網中 有里(指導栄養教諭) 澤 綾子(指導養護教諭) 佐藤 薫(指導教諭・病弱部主事) 辻 美穂(小学部主事) 佐々木 敦子(中学部主事) 田中 美津子(高等部主事)
傍聴者	保護者1名
協議資料	下記議題関係資料及び意見書
備考	平賀健太郎委員より、書面にてすべての議案に同意いただいた。

議題等(次第順)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>(2) 「第2回 授業アンケート」について</p> <p>(3) 「学校教育自己診断」結果と分析状況について</p> <p>(4) 「令和5年度 学校経営計画」の達成状況について</p> <p>(5) 「令和6年度 学校経営計画案」について</p> <p>(6) 意見交換</p> <p>(7) 教頭挨拶</p>
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>・卒業まで1ヶ月を切り、児童生徒たちには友達との時間を大切に過ごして欲しいと感じている。また来年度に向けて、いろいろな課題を解決しながら、新たにスタートしていければと考えている。本日は、様々な立場から、本校の教育活動をよりよくしていくために忌憚なきご意見をいただきたい。</p> <p>(2) 「第2回 授業アンケート」について</p> <p>・今年度からフォーム作成ツールを使い回収することとなった。若干回収率は下がったが、おおむね、保護者からたくさんのご意見が集まった。1学期は、「大体そう思う」という回答が多かったが、2学期になると、「そう思う」という回答をたくさんいただいた。授業改善にも役立ったと感じている。来年度以降も授業改善に使っていきたいと考えている。</p>

(3) 「学校教育自己診断」結果と分析状況について

・今年度より、教職員用と、保護者用については、フォーム作成ツールでの集計を行った。児童生徒については、紙媒体で、引き続き行っている。教職員の回収率は、100パーセント回収することができた。肢体不自由部門については、全体的に見て、肯定的な意見が多かった。教員用の病弱部門については、全体的に、「よく当てはまる」「当てはまる」と、肯定的意見が多い一方「わからない」という回答が見られる。病弱部へなかなか、本校での取り組みが伝わりにくいところもある。今後も、本校の取り組みを多く発信して共有していく必要がある。

・児童生徒と保護者の相談体制に関する項目については、肢体不自由部門では、数値は、悪くなかったが、病弱部のところについては、一定教職員数が少ないことも要因と考えられる。☆については、次年度の本校の重点課題として設定している。校内の施設設備に関する項目、30番については、こちらの肯定的な意見が減少している。その背景としては、今年度、施設設備に関する学校物品を、十数年ぶりに整理した。老朽化したものなど様々な物品が出てきたことが、肯定的な意見が下がった理由である。今年度より月に1回、各教室等安全点検を行っている。仕事の効率化については、スムーズな引き継ぎ、働き方改革に関する項目は、昨年度と同様に、肯定的な回答が、60パーセントと、依然として低い状況である。今後も継続し、重点課題として取り組んでいく必要があると考えている。

・保護者用アンケート(肢体不自由部門)について、フォーム作成ツールになり、回収率が下がるかと懸念されたが、ほぼ下がることなく集計できた。学校間交流に関する項目については、昨年度に比べて、肯定的な意見が多くなっている。コロナ禍が明けて、今年度より対面での実施ができるようになったということで、肯定的な意見が多くなったと思われる。将来の進路や職業に関する項目については、児童生徒のアンケートで「わからない」という回答率が一定あった。全体を通しておおむね肯定的な意見が多かった。

・保護者用アンケート(病弱部門)については、昨年度と比べ回収率は減少した。病弱部の特性というところで、実施の時期の事もあり回収率が低くなったことが1つの原因と考えられる。全体を通して「わからない」という回答が多かった。学校での取り組みを、より多く発信していく必要があると考えている。児童生徒用については、昨年度に比べて、未回答の数が減り、全体的におおむね肯定的な回答が多かった。進路指導に関する項目については、「わからない」という回答が一定数あった。小学部、中学部の児童生徒にとっては、進路や将来の職業についてなかなかイメージが付きにくいところから、「わからない」という回答があった。日々の授業内での意識づけとともに、質問文も検討する必要があるかと考えている。学校経営計画及び学校評価の中で目標としていた指標は、教職員、保護者ともに肯定的な評価75%以上という目標を掲げていたが、大きく上回る事ができた。次年度の重点課題について、具体的な改善策は各部署で現在検討中である。

(4) 「令和5年度 学校経営計画」の達成状況について

・進捗の段階で説明している部分に関しては、既に成果が出ているため省略させていただく。学校経営推進関係 GOGO プロジェクトについては、参加者からは肯定的な評価100%ということで回答をいただいた。また、自己診断についても、教員の方は99%以上の肯定的評価や、保護者も80%の評価もあり、十分にできていた。4「発信力の向上」と4-(3)番の「実践の積極的発信」について、教員の発信や、子どもたちの校外での活躍についても◎であり、地域との繋がりの部分等は、十分に達成できていたと考えている。防災関係については、いくつか△の部分があるが、コロナ禍で開催できなかった地域関係者との会議を今年度より再開できた。1「安全・安心力の向上」(3)「危機体制、危機管理体制の強化」については、旭区役所や文科省の事業も活用し、進めることができた。大きな地震があった場合は、指定避難所に指定されているため、今後も意識を高め

て取り組んでいきたい。学校教育自己診断の部分より、保護者から肯定的評価をいただいた。次年度に向けて、校内の施設設備に関することや、仕事の効率化の部分については、課題になってくる。病弱部については、情報がなかなか伝わりにくいというところもあり、保護者も、児童生徒も「わからない」という回答が多かったところから、どのように取り組みを伝えていけるかというところは、課題になると思っている。しかし、病弱部においても、子どもたちの人権や、いじめに関する項目については、肯定的評価を保護者からいただいていることから、日々の取り組みについては、安全、安心として認識していただいているように感じている。進路に関する項目については、保護者も、児童生徒も、「わからない」が多かったということがある。キャリア教育については、今年度、キャリアプランニングマトリックスを、年度末に向けて完成させる予定である。それとも関連付けて、来年度に重点としていければと考えている。

<補足>

○防犯・防災計画について

・避難所として自動開設されるのは、震度 6 弱以上。

○光陽研修ライブラリについて

○ロボットプログラミング選手権(病弱部)

○ポッチャ活動

※各々、補足説明した。

(5) 「令和5年度 学校経営計画案」について

安全安心力の向上

・目指す学校像は長期的なものであり、定期的目標についても、3年から5年ということで大きな変更なし。中期的目標については、1-(3)施設設備の点検や、備品等の管理を徹底していくことで、安心安全に学べる環境を整えるということを加えた。他については、令和5年度と中期的目標を目指す学校像については同様のものとなっている。来年度、大きな重点目標の項目は変えていないが、具体的な計画と内容は、授業アンケートや学校教育自己診断の結果から重点的に取り組むことを考えている。1-(3)「危機管理体制の強化」については、指定避難所の運営や大災害に備えて旭区役所や自治体、分教室では病院という点を組織として準備していくところを加えた。指定避難所ではあるが、まずは本校の子どもたちや、教員の命を守るというところを大事にしていきたい。避難訓練を行いながら、保護者への引継ぎ訓練を、どのような形で行えるか考えていく必要がある。危機意識をもって、普段の訓練を重点的に取り組んでいきたい。

授業実践力の向上

・ランドデザインや、キャリアプランニングマトリックスを活用し実践につなげていきたい。子どもたちが将来に希望や夢をもてるよう、ランドデザインに位置したキャリアプランニングマトリックスの可能性を広げたいと思っている。2-(2)「質の高い教育」については、今年度に引き続きさらに進めていきたい。2-(3)「自立活動の充実」については、基礎知識を底上げできるてだてを検討していくことを挙げている。

組織力の向上

(1)システムとして研修ライブラリの準備はできている。活用していけるよう進めていきたい。(3)「校務のスリム化」会議等、何か減らせるものは減らしていきたい。「光陽ふわり・ほっと」について、心温まることを教員で共有していくことで子どもたちとの関係や、教員同士の仲が良くなることに繋がればと取り組んでいきたいと考えている。

発信力の向上

・今年度も十分に取り組めているが、校外へどのように発信していくのか検討していきたい。ポッチャやロボットプログラミングについても継続して取り組んでいきたい。

(6) 意見交換

・肢体不自由部門、病弱部門、同様に多様な観点から計画がなされており特に申し上げることはない。
・障がい理解や、人権教育の観点からも、センター的機能という重要な役割として発信して欲しい。

(7) 教頭挨拶

委員からの意見の概要

第2回授業アンケートについて

・肯定的な評価が多く、子どもたちの実態に即した授業が行われていることが伺える。ただし、回収率の差は課題として浮かび上がり、その原因や回収率が結果に及ぼす影響についても検討する必要がある。また、質問項目の規模が「児童生徒」となっているが、授業を受けている他の子どもさん全体のこと想定して回答される可能性はあるようにも感じた。「お子さん」という表現を使用することも一つではないか。

・肯定的な意見が多かったことについては、評価できる。回収率の方法論についても関係していると思うが、さらに改善できるよう課題を浮かび上がらせることが重要。

学校教育自己診断アンケートについて

・肯定的な評価が多いものとなっており、大いに評価されるものであり、継続していくことがよいとされる。a プラス b の前年比較がされているため、結果論点がわかりやすくなっている。ただ、数%の違いは、何人回答者がいるかという、回答者の人数によって変わってくる誤差の範囲のようにも思える。a プラス b の変化に注目することに加えて、あまり当てはまらない割合が多い項目に関して、その理由や改善策を検討していくことも重要と判断した。

・全体的に評価が高く認められていることに感心している。日頃のコミュニケーションの会話の中で、どれだけ出てきているかによっても、「わからない」というところに関しては、実際に関わっていなかったら、わからないのは当然である。こうしたコミュニケーションを、できるだけ教職員から、保護者とのコミュニケーションをとっていく中で、理解していけるのではないかと思っている。学校経営推進費の項目が、非常に高く評価されているところだと感じている。何年か経ち職員が変わってくる中、どんな目標にしているのか、それはどんな評価をするのか、評価が高いほど、充実させていかなければならない。スパイダーも自立活動としてどんな取り組みをして、目標は何か、どんな項目が関連付けて出されているのか、どんな評価が必要なのか、毎年確認しながらやっていき、高く評価をいただいているところは、維持できるようにしていくことが非常に大事なことである。

学校経営計画について

・学校経営計画全体に対して設定した目標は達成されており、大いに評価され、学校全体として保護者や教員、地域、子どもたちを大切にしながら安全で安心な楽しい学校を築かされている成果だと考える。目標を大きく上回る成果が得られたものが◎で評価されており、それ以外は○とされていることが多いが、目標通りに達成することだけの多大なエネルギーや努力が強くされている。具体的には言及しないが、◎に変更された項目があるように感じた。

・将来の進路や職業に関するところで、「わからない」という回答率が一定数あったが、全体を通しては肯定的な意見が多かった。高等部を卒業する際、夢を膨らませ、目的を明確にもって社会人になる人はどれくらいいるのか。夢をもって自分のやりたいこと、目標が叶えられる世界に送り出すのは、学校の役割でもあるのではない

かと感じながら聞かせていただいた。例えば病弱部の説明で、プログラミングについて、そこで出会った人とのきっかけで、自ら学び将来の目標を明確にすることができたということがあったが、たまたまプログラミングとの出会いで夢をもてたが、個人に応じた夢をもってもらえるよう小学部、中学部、高等部と長くて12年間ある中で何かできないのかと思った。例えば、卒業生で活躍されている人の講話があればいいのではと思った。そこに事業者も呼んでいただく機会があればいいなと思った。事業者のレベルアップにも繋がっていくのではと感じた。地域と企業との連携も考えていくのもいいのではと思った。

・日本の教育は、平均的な偏差値教育みたいに感じるところもあり、支援学校は違う面もあるが、個性をもっと伸ばし、それぞれにあった素敵な出会いで輝けるよう得意分野を伸ばしていけたらいいと感じた。好きなことを伸ばしていけるところにスポットがあたると、もっとスペシャルな人が増えてくるのではないかと感じながら話を聞いていた。

・研修ライブラリについては、いつでも検索して見ることができ、新しい先生が入ってきたところに有効である。また、引継ぎ時にも有効だと感じた。

・前回にもあったが、地域などへの発信する際、個人情報部分をどう超えていけるか。他の高校生や大学生に支援学校の子どもたちが、たくさんの可能性をもって取り組んでいる様子を発信し、理解を求めていけるようにできたらと思っている。

・「光陽ふわり・ほっと」でいいものがあれば見せていただきたい。

・診断アンケートで、「まったくあてはまらない」「わからない」に関しては、具体的に何かあってチェックをされていると思うので、何があったのかお聞きしたいと思った。ただ、保護者間で話す中、光陽で卒業を迎えることができることに本当に良かったという意見をよく聞く。違う場所へ通っていたら、こんな嬉しい学校生活ではなかったかもしれないということもよく聞く。本当に先生方に良くしていただいていると感じている。これからもよろしく願います。

・学校運営協議会への教員の参加人数が光陽支援はとでも多く、いろいろな先生方が参画されていることは非常に大きな特色だと感じた。評価の高いものほど下げず、質を高く保ち続けられるような取り組みが大事だと感じた。できないところよりも、良さを伸ばしていくと自ずとついてくる部分があると思っている。評価の高いところに力をいれいただき、全体へのアップへつなげていただきたい。専門性と、組織力、発信力については連動している部分があると感じている。

次回の会議日程

日時

令和6年6月頃予定

会場

大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室